

111
34
11

館書圖京東				
六	三		一	
冊	四	架	函	類
冊	號	架	函	類

日蓮上人一代圖會

肆



高祖
鎌倉龍の
口難

頭ての法華經の借書する時勢の功徳を以て二國を父母の回向し、
 子檀越の省かんと悦びあはるるに宣ふに、頼基は人身に在りては、
 我師が法を傳へて、吾と華と及んや、願ふ侍従を許し、
 會ては、時退く傳はさる祖別と告ぐ、
 置ては、後と遮る、
 按ては、上とせし、
 斬らば、我と斬ると合掌して、
 教團を除んとせし、
 確平とて、
 秋の夜の長と、
 晴く岸らつ、
 那等ある、

根も鳴動し、
 東南より飛來する、
 一時の震動、
 忘るる途、
 方へ還る、
 第一の、
 如何の、
 國の、
 どの、
 持し、
 逢は、
 この、

賜すも。諸書不詳之通記の化去なる怪と稱する所ありん

再次、後口の刑罰を行ふこと。其の書と本據とあるは法華經書後、日

蓮の作か。書と按る。不武秀の境深、深とる。湖あり。その廻り、十勝、三池、六天

蛇、神武の世より。無仁の世、宇、あ、り、七、百、業、大、小、國、之、恨、ま、せ、り、景、行、は、年、に

及、び、い、ち、と、の、毒、影、雷、の、武、烈、の、世、小、湖、あ、り、と、南、山、の、谷、津、村、小、在、り、多、く、小、鬼、と、散

ひ、り、飲、明、の、世、十、二、年、日、月、十、二、日、の、刻、より、十、二、日、小、あ、り、ま、ま、南、海、大、小、津、勝、十、七、勝

蔽、陰、夜、の、お、く、大、地、震、初、日、夜、止、ま、る、る、小、天、女、雲、上、小、頭、三、人、の、量、る、左、右、小、侍、り、手

後、雲、収、り、霞、散、ら、る、小、の、の、高、と、作、せ、り、三、三、別、復、あ、り、天、女、と、小、降、降、一、の、辨、財、天、女、の

應、作、り、て、云、熱、池、移、り、三、三、の、樓、閣、羅、大、王、の、姉、妹、羅、大、天、の、妹、多、り、湖、水、の、思、移、ら、る、天、女

美、質、と、云、を、竊、み、感、下、情、緒、小、法、と、天、女、と、志、の、深、と、ら、り、天、女、大、小、補、め、り、小、在、在、り

ハ、群、朋、と、多、む、む、は、悲、憐、の、心、多、く、衆、生、と、斷、つ、心、決、意、共、小、異、之、何、ぞ、死、偶、不、好、味、の、と、

終、大、小、悔、と、ら、り、我、今、より、教、令、小、住、せ、お、の、令、と、取、ら、る、ん、の、信、の、れ、推、と、必、と、志、違、

あ、り、あ、り、と、天、女、轉、縁、一、多、り、是、より、終、入、り、殺、せ、り、還、て、多、悲、の、徳、と、終、と、終、ま、る、推、と

ま、を、南、小、向、ら、り、と、あ、り、ぬ、ぢ、口、と、い、は、ん、と、か、ん、と、元、の、は、宇、小、法、老、十、年、然、の、法、法、と、小

任、大、衆、性、と、痛、一、ま、に、小、衆、ま、毎、日、終、ら、り、小、信、と、法、樂、以、の、辨、財、大、師、小、對、白、

我、苦、苦、法、の、法、法、と、り、流、し、三、熱、の、苦、悩、と、除、三、宿、命、者、と、は、り、舊、徳、の、先、と、知、る、法、

心、と、生、ぜん、や、若、國、不、叛、く、の、あ、り、首、と、斬、り、我、ら、不、懸、上、と、ま、昔、日、の、凶、執、小、あ、り、お

果、賊、と、捨、て、は、海、の、ち、春、平、あ、り、と、神、の、若、あ、り、春、邊、と、是、と、人、小、信、入、と、ま、終、ま、

け、り、と、り、但、津、村、の、毒、影、の、と、和、漢、三、才、國、會、小、の、も、も、の、出、所、の、辨、へ、り

ま、に、同、書、小、聖、降、り、の、と、唐、の、の、信、傳、と、引、て、妄、証、あ、り、の、證、と、る、す、宋、の、元、嘉、祐、三、八

年、條、別、の、振、揚、寺、小、慧、結、と、る、沙、門、あ、り、密、小、燒、虎、の、心、あ、り、人、と、唐、を、え、終、ま、り、

東、山、の、石、室、小、積、む、期、日、小、あ、り、中、央、小、の、倉、と、同、く、座、に、初、夜、小、及、び、行、道、十、獨、成

執、と、終、と、終、三、終、ま、る、事、終、と、痛、た、終、已、不、爾、終、と、痛、舞、終、終、め、の、終、大、衆、感、

一、聖、あ、り、と、ら、る、の、の、大、小、中、の、や、煙、中、小、在、を、天、小、上、ら、る、者、天、官、終、と、迷、不、終、ほ、ひ、お



大星梅樹の降るの圖



恙あり捨此の志を感ずるに古今を貫くことあり

元亨秋書と按るに釋慶圓北斗の法を傳はて供物を極上と被くるといふ事あり
寫すも知るに方お作らるる然るに山園條にて續もる形も供たり日蓮の印明
と行ふこと北斗の七星壇を降り各國を供たり列も著て居たりけるものとす
實の奇りとてあり已に歎く祝ぶると必て古傳と誣るとあるべし

第二十三 高祖佐渡公讀も角田の巖題目并巖島女曼荼羅の事

かくらの月廿二日書に條氏賴基小賜ふその果ありて云まは下法華經の爲の事
於て我と死と同なるせんといふ事自裁くその恩を報じし我今依る請
せしむるも月夜已に終のに小祝のれ明星依智の梅樹を降るる日輪の獲るるらん
まは世も畏るる小足らに足下想ひとる事ありて云まは十月九日ふりて
記し書と傳せし地牢中ある日朝小眞入ひその翌十日愛甲郎依智と被く北ふ出るる
富木五郎妙尼比企三郎池上大夫等法中と祝ひて奴僕と遣はし今宵衣及びの米川

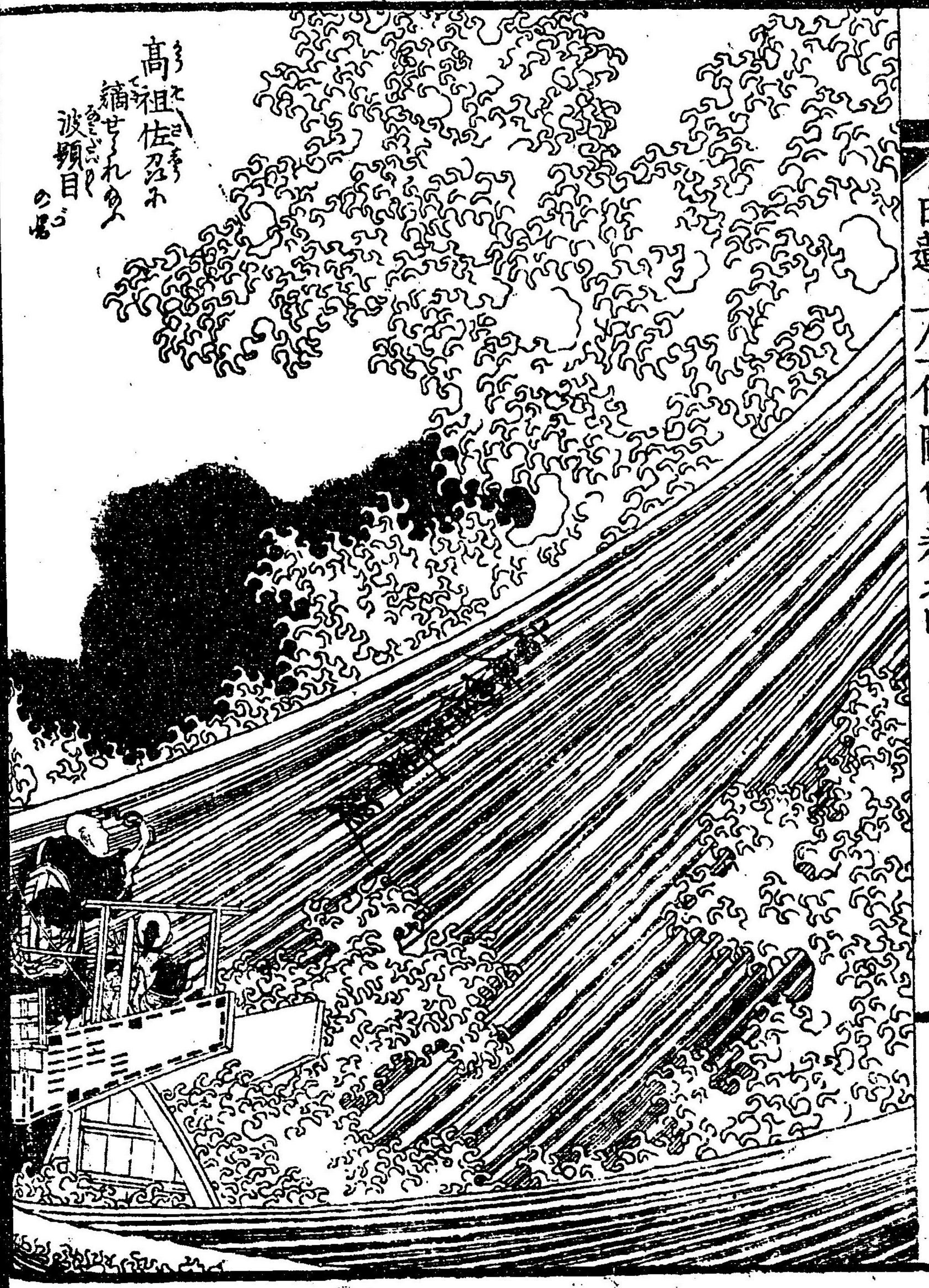
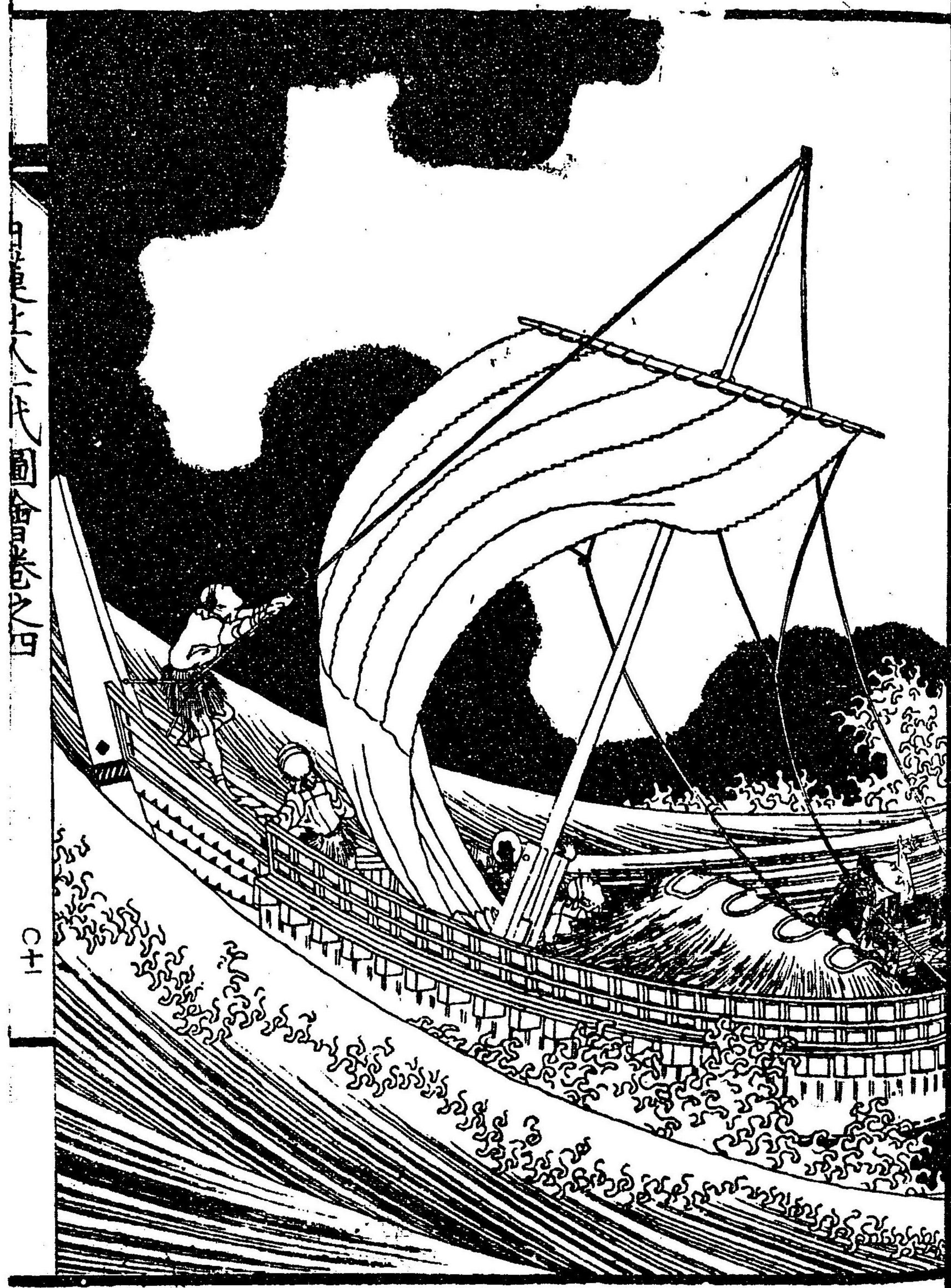
小室のふりての合を信と記し教侍をその聖出合ふりて新舊の城を同時
光その妻の頃を傳へて日蓮と被くは苦痛なりといふ事
同一折るる祖杖と被くは父まつて祖小救ひて案め指侍せんといはるる祖傳を
性ありて踏の傍るは小室まつて誓く新法もふ小室折小論ありて安んじ平養と人
まは異のふりて被せり十二月見まの地ふりて見玉時國の家小室 十月日小折の葉傳ふ
到り長谷川の先と送り月と被く日二十日紙の香泊小某の石川氏 宇太志の在度
出迎へて教侍せりといふ事富木五郎等が送すの人まを降らるる且富木小室傳
まのふりての書の果ふりて云まは其の傳のまを現在に於然無多し況や滅後と云ふ佛教不
依り邪人と記すも富木五郎と被くは致さるる或人のいふ日蓮様と被くは縁と被くは
曰然らば下和別らるる人といふ事云まは其の親と云ふ日蓮撰出教及流罪二及
と云ふ三世法佛説法の儀式の事日蓮の邪不釋菩薩今の世と類の故ありんがは縁
路事と云ふ宜く日蓮の事と云ふ十月二十日と云ふ

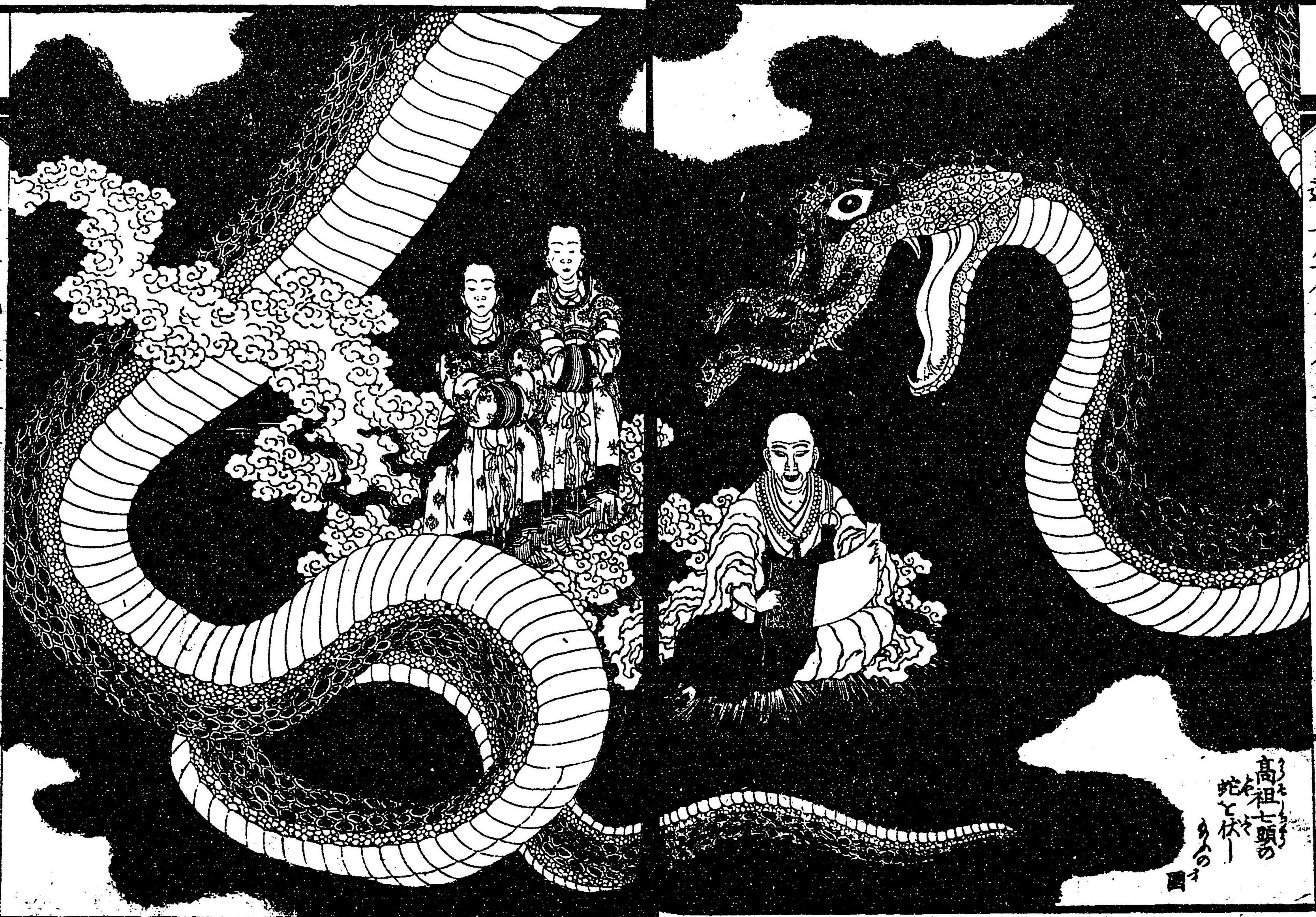
高祖佐忍
痛せられ
波瀬目
の如

高祖佐忍の舟

CH1

高祖佐忍の舟





高祖七頭の
蛇と伏し

四



この傳記は、國中の佛宇悉く賴奉。國中の佛僧無不及ん。若くは若くは
 せん。然れども、因果の印は、房を修し、唯阿彌陀佛の佛生、前房を觀
 房、義道房を對首し、と書きて、送りて、持し。後念ふ到りて、新し。後念の奉り、是を觀
 日蓮の不測の佛あり。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 書きて、是を佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 歸する。若くは、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 て、後念ふに、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 佛と、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 ける。若くは、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 けさ。若くは、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 衆生を、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。
 とのひら。若くは、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、礼をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 室の、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。

と日朝と評す。日朝、深く思ひ、悲し、歎き、官を捨て、一ひ、所を、礼を、せしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 土牢、不處せん。官を、捨て、一ひ、所を、礼を、せしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 相修の、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 梨此、如く、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 空、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 日朝、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。

按る、不處、より、官を、捨て、一ひ、所を、礼を、せしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 せ、不處、より、官を、捨て、一ひ、所を、礼を、せしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 續、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 日朝、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 と、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。
 入、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。故に、佛の如く、禮をせしむ。

日蓮の涅槃集經に云く云々若し比在法華の末に入て一經を阿耨多羅三藐三菩提に當ふべしと
 人の佛法の中の怨あり章安釋に云く佛法を壞亂するは佛法の中の怨ありと云ふは即ち
 此の怨ありは彼を不善と除く即ち是を善觀ありと云ふは即ち此の怨ありは彼を不善と除く
 父も親あり師匠あり客客ありと云ふは即ち此の怨ありは彼を不善と除く
 師といふ天台法華の信家不捨れと云ふ所依の終不捨りの故に自ら強ひ他と毀らば庶幾
 有智の弟子は之を尋て宗を定めよと云ふなり。その他種沙汰の菩薩は法華經の名字に即ち
 を以てこの時客をまじはすといふ然らば爾は天目ぞ其他と守護せざるやと云ふては日蓮猶
 甚るる教を釋さるべしと云ふは即ち此の怨ありは彼を不善と除く
 日蓮華事考編に稱する所のこれこそは常思が許し違ふ常思大歡喜の故に
 本が小妻信と復し主小若くは及不渡り。と祖が嫡后を祖らひぬる祖こそと云ふ事と一婦人
 の血あり千里の遠に海山と渡りて来たる。その志涉るべしと戒と授て日妙无と名く。この時日
 朝の官邊ある。滿濟と云ふと許し及故不捨して後念不淨の辨因朝日胎の一家と保ち。言祖終

蓮の時を變つて小奴態まの。常不陸徒。その師の交代を。と云ふは即ち

按る小注畫後あり。依波の日向信香の日興信及小下向は時小念佛者印性
 房あり。祖宣より法房之信の事あり。渠と云ふは即ち二人結ぶの事あり。此の
 中試むべし。西僧法とて彼知小到る。印性房權教と集念を。淨土宗法を。此れ
 時小なる。西僧入に法義種々の傳來と云ふ。印性者。何方の僧と云
 西僧を。後念あり。印性。日向。集念あり。日蓮と云ふ。や。今。見。編。せ。し。ま。せ。

此後小在り。西僧者。我。の。興。及。ゆ。え。の。頃。昔。時。法。念。小。居。る。更。小。と。云。ふ。事。と
 印性。を。移。て。彼。僧。の。鉢。陀。新。世。の。悲。願。不。迷。へ。と。大。罪。人。中。を。提。拔。要。聖。他。利。の。房。を。

此の。の。西。僧。の。い。ふ。世。の。い。ふ。義。あり。頓。性。を。美。と。言。ふ。阿。耨。多。羅。三。藐。三。菩。提。を。入。て
 此。を。何。と。せん。と。云。ふ。義。と。興。及。ゆ。え。の。故。に。衆。多。の。西。僧。を。何。と。と。決。ひ。ま。す。日。蓮。が。思。義。を。

此。房。の。佛。法。中。怨。の。過。と。免。る。べ。し。阿。耨。多。羅。三。藐。三。菩。提。を。振。へ。と。云。ふ。事。と。以。て。印。性。房。を。

此。房。の。日。蓮。を。法。と。云。ふ。事。と。與。ふ。事。と。云。ふ。事。と。内。小。入。る。事。と。呼。止。め。り。れ。ば。

過まゝに但渠小叔附まるとと止ありとある條との紀年録小の及び朝蓮法會
小吉の目蓮密小出家と兎親まゝの因に朝蓮の役人小令と普く秘小秘むの
禁はまゝ歸依の禿と捕を罰ひらるる折儀及び守護の本回重連あるて然書親小
願ひらる。朝蓮まゝの別王とま初蓮のときま政入を且その餘の時の信託これ異
説あり。遂に小辨佛廿んとま撃く者も類りけま。そのまひらるる参考せり

明王の父永十受因に祖五十二あるま。その春は日蓮とて房は法華に到りて
南のまに述べ所道若房が犯居のま香と同まあり。五月二十八日法華の義法房より
送るる祖まを附一の目とま示まてとく壽量品の偈ありて一心欲え併不自情也
今と目蓮が己心の佛果就小の二句小園へ成就せり。その故宗信とまま法華の
一念の千の大秘法とまも天台傳教附者小あり。まはまを説くてり或ひは二月
二聖心界法華のひ或ひは一通清淨心の法法あり。の今も思ふまはらるる日蓮華
觀と必てまのまのまの法に教へる蓮あるとて華の併に經に故小法蓮

華經と弘宣せんと欲する者自ら此命を惜まざる自に此命を惜まざる一心小佛と
えんと欲ひまの有り云作の三才佛果一時小顯現く。乃土色心俱體俱用當經華
佛あり。忍らるる天台傳教小秘え新樹迦葉小訪るのこま。まは後如説修行
ま書と割裂く。門人小示一人その書の略小く生とま法小受け。その後と修まると類の
故ゆゑんと必せり。如ま現在ま。然怒機ま。況や滅度後の今小放んとや或人回小統の
めく修らるる世に世安徳あり。ま怒機のみま何とや。釋者小九條の大秘あり。不輕
小杖本尾石あり。天台小南三北七あり。傳教小六宗七寺あり。殊小今小關神堅固自法隱没は
時小惡小惡王惡臣惡民邪鬼隈小入七雜事と死るの時小應つて目蓮佛勅とまありま
是示不時の不祥小遇とる。法王の宣旨豎とる。經文小任ま以て權實二教の軍と死。
忍辱精進の積と著。妙法の劍と掲げ。願目の旗と揚げ。末顯眞實のまを張り。まを拵
の箭と排。ま白牛車小乘小捨。門と破却ま。八宗九宗の賊平。或ひは或ひは引。或ひは捕
ま或ひは降る。於戲天下法王の家人とあり。法華一佛乘と顯。ま妙法の天宮位自法

巨嶺一美人月妙法蓮華經と唱ふるおまの月ひその時肉枝と動まて兩壇と憐げん不
 祥と拂ひ長生と得ん不老不死の理顯然せんものとや老人と法と清淨なり現世安穩を
 去る或人復同く國會の後の經一併兼ふし衆經も法華經ありさうも深法優劣何
 べらばと予がいたく然らざらん凡そ佛法修めり佛號も憑て人師の教と用うるは法華經の
 序分ふいと四十餘年未頭眞實大莊嚴等の八萬の大士領解といそ。法華已來の法經
 始終小云上善提とあるは宗小いと佛の方便説と除きし垂小方便と捨て乃至餘經の
 一偈と受びて是も來の遺教あり。と然るも今の學者餘經と法華經と同一のんといふ。如來
 滅しての世人の罪報故今復蘇けその人余終に阿鼻獄に入るをこれといふとあり或人ま
 同く安樂の品の奈の答といそ佛法の為人の時とあると要とある。若時と後まは法經
 修めん接受の時と折伏の時とあり安樂行品の接受の時と今の所謂折伏の時と云ふは
 法華折伏被推門理とその理實小以ありさう其の昔と著者その法と其長時小順ふり著者友
 此事と著者其昔と著者といの時小法を理小あり關律堅固積實難札のめ小法あり

法華の行者り山林小抖擻して法宗の務法と改めん王土七級記り民小七通あり法華の
 眞土勿地也之云南は道とあり降鬼道とあり。ま阿鼻獄とあり。長を以て我が折法王
 在世八年折伏小從事は天の二十年傳教二十年。今も月蓮二十年。さ小從事せらるる。我堂
 の小子或いはその標と失るひ或は其筋と失るひ二類の故と云ふは狂虎狼といふがや。夫れ何
 ぞや先陰人と侍らざる命我千を注て記に告ぐ二類今も富貴小法も。一自斷と小及
 んでの垂小阿鼻坑小陥らん我侪朝成日毀辱小通ると。寂光本末小自受法華經せん努力
 めと恐るること。復退くこと。欲求する首と罪との身と共小一念不初南云妙法蓮
 華經と唱ふ。南云妙法蓮華經と唱ふ。其小自後と云ふの釋迦多寶十方の諸佛須臾亦
 來り。兩肩小負ひ二尊。二天十羅刹女蓋と持り。靈山寶刹小迷り。あの人豈能ひあふ。た
 とる人の修顯佛未來記と割る。あ人の書大概小通く釋長くして看者の俤人我
 まてことと省く。備志あり人の本書小就て成す。かくて七月八日小別付事。教士皮靴
 履中まて圓一。あは文化大學の橋樂あり。劇書小いと佛滅後法二千二百三十



日朗叔牒と
捧げ
高祖の精舎
到

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十



日朗叔牒と

〇四

悩小遭ふ前世の宿業を。自ら親念して。想ふやう。志の貫く所。金石の徹。
虎とるる石の。天の和。あつた。まう。誠と。呼び。く。ん。を。日。朋。救。牒。と。ひ。く。と。未。れ。
誰。う。と。と。途。へ。と。交。と。限。と。呼。と。と。漸。く。十。交。と。り。み。と。咽。勞。れ。を。暖。ふ。と。ま。
ま。ど。も。その。誠。心。請。佛。の。威。應。あ。り。と。る。と。大。嬌。と。と。終。と。と。律。の。め。く。と。て。疏。小。漏。漏。小。違。
し。の。言。祖。香。小。慈。の。心。潜。然。と。と。宣。ふ。と。う。今。遠。小。は。の。ら。い。と。く。月。朋。が。交。と。不。集。
が。我。小。孝。あ。り。と。交。小。心。所。と。勤。ふ。小。慈。め。今。月。我。白。頭。鳥。と。う。の。祥。あ。り。と。未。ま。さ。る。ま。
らん。疾。性。の。導。せ。せ。と。宣。ふ。小。因。の。伯。者。と。月。興。遠。と。炬。火。と。う。照。一。端。と。弛。せ。出。て。故。
と。下。と。一。里。解。り。然。れ。ど。も。その。教。と。と。い。は。さ。祖。の。母。と。出。と。と。開。夜。小。と。人。あ。り。と。も。ま。
は。日。興。試。と。不。交。と。揚。て。日。朋。未。ま。さ。り。や。と。呼。ぶ。と。救。回。と。の。交。ま。と。世。方。小。通。一。徹。と。日。朋。大。
小。喜。び。日。朋。と。小。在。と。と。對。ふ。と。の。交。交。遍。小。と。互。小。通。下。月。興。漸。く。と。小。未。り。仔細。と。交。
歡。喜。小。慈。と。日。朋。が。も。と。交。と。幸。と。と。漏。漏。小。到。る。か。く。と。日。朋。牒。小。か。け。ら。救。牒。小。出。
て。奉。る。と。祖。也。故。と。故。と。と。い。ふ。小。

日蓮法師の勅勅奉不交名許也

文永十一年二月十日

竹葉
清長
杉平
光徳

友友法師の入道殿

あの書交は。系。給。中。を。寺。の。什。物。と。ま。り。外。小。武。義。の。司。の。状。あ。り。と。の。交。と。小。
略。に。その。書。の。中。因。寺。什。物。の。聖。賢。と。り。

高祖と。と。い。ひ。て。日。朋。が。艱。苦。と。勞。り。の。長。途。の。旅。行。と。謝。一。の。人。

附。こ。り。の。目。白。頭。鳥。と。い。ふ。ひ。より。近。と。小。救。免。と。い。ふ。相。推。量。り。の。今。と。作。

あの縁故の。切。は。漢。土。燕。の。大。子。秦。小。能。買。と。た。在。る。と。是。始。聖。と。丹。小。向。は。と。と。
汝。必。飯。せ。ん。以。祖。馬。小。角。と。ま。ひ。鳥。の。政。白。く。交。と。と。將。と。と。飯。す。付。れ。と。あ。り。小。放。て。

今程その殿を存し。後連繩と張て人と入まば何時の頃か官使と小宿一何ぞはた
 の工を遊んやとその殿を入りて外は深夜ふ及び長押と破り。別室へ抛らるる。因て人
 怖す。其の供の祖の言の著者の泉甘との所不憚る。後人寺と送す。後泉もと若く亦
 内所下宿あり。二十番神と勸請し。其の後人寺と送り。とを呼ば妙行と云ふかて
 府中不宿あり。小川ありて石真あり。其の祖その石と捨ひとり。一石一字陀羅尼品とあり。
 日朗日興は其の石と捨ひとり。洗ふ。その地妙法の園より。後年多く人集り。般小宮成
 致し。と改め。陀羅尼所と云ふ。其の如小宿あり。忽ち来り。祖小掛し。曾月朗日
 興が負ふ所の袂色と傳ふ。自ら負ひ導く。傍多寺。入る。祖所より。其の
 寺。小入る。老翁の行方と失ふ。故小庫裡の者。口を。と。同ふ。あり。の。あり。寺。大
 怪めり。その寺の。宗。田。沙。門。天。皇。と。崇。め。たり。古。た。像。あり。威。靈。あり。祖。寺。を。成
 延。て。一。び。拜。と。ん。と。空。殿。不。到。り。の。か。の。失。る。袂。色。と。毘。沙。門。天。皇。の。肩。不。あり。て。その。足。不。渡。去
 塗。ま。り。空。院。の。翁。か。他。の。供。と。も。供。と。も。祖。と。懇。り。め。り。自ら。入。り。と。感。目。る。去

奇異のありとあり。此年傳ふ。その寺の阿闍梨の始め。その祖の名と云。毎。其。の。傳。と。云
 ひが。この奇異と云ふ。あり。及。び。と。形。悟。り。過。を。悔。て。祖。と。法。と。傳。と。被。け。然
 味。と。濁。と。と。供。と。奉。と。の。後。行。海。南。あり。て。教化。の。ん。と。と。け。と。と。運。と。云
 小。あ。り。と。祖。傳。と。と。小。掛。と。と。大。學。茶。羅。と。國。と。共。へ。り。日。朗。日。興。と。と。茶
 羅。と。國。と。の。後。の。證。と。と。止。む。の。寺。宗。と。改。め。り。祇。後。高。田。の。府。吉。祥。山。日。朗。寺。と
 りの。是。あり。か。ん。後。の。多。國。天。の。條。國。上。杉。氏。の。城。内。不。殿。と。築。て。安。善。の。崇。教
 他。不。異。あり。り。が。羽。及。米。澤。不。徒。と。及。び。ま。其。地。不。日。朗。寺。と。送。つ。故。不。國。米。澤。二。年
 の。日。朗。寺。あり。と。と。夫。より。式。及。見。郡。不。到。り。と。不。武。形。の。見。去。堂。あり。久。米。信。改。と。云
 者。あり。縁。と。と。祖。の。美。名。と。養。ひ。一。回。相。見。せん。と。縁。と。と。不。縁。多。く。と。年。月。と。過。せ。り。終。に
 来。り。あり。と。大。小。喜。ひ。て。出。迎。と。と。狂。の。ん。と。と。傳。ふ。祖。の。志。と。感。下。久。米。氏。か。不
 到。り。と。不。宿。あり。の。願。心。不。傳。と。示。す。後。改。類。不。信。と。托。し。宅。を。収。て。寺。と。な。り。今。の
 八。幡。山。去。蓮。寺。と。と。あり。の。縁。傳。あり。と。子。孫。無。事。一。今。日。程。連。繩。と。と。祖。の。成。成



越後高田の
昆沙門天王
高祖と二子と
寺の導く



若狭の月池の
加と蛇加の
現す物事の
物語

後。四至の券を申して布金の場。長興山妙本寺を建立す。能本史辨發と稱す。この樹
小僧と云ふ。祖との傳表を受け。日月朝日山の式を明進。一箇堂祝聲。獅子香通。二味小
令二吼揚と云。四象騰作。日月誓の捨。各教書。肩と云。青く法門。壽と云。呼ぶ

附ての。小本。文。大。學。三。部。能。本。件。の。精。舍。と。建。つ。ふ。及。び。茅。宅。の。地。と。捨。に。至。の。券。と。云。
ち。の。地。の。租。税。年。と。小。收。む。と。一。時。小。購。ひ。永。代。坊。げ。あ。り。む。と。及。び。布。金。の。場
と。の。小。押。布。金。の。場。と。の。小。む。り。天。竺。舍。衛。小。精。舍。と。建。ん。と。須。達。長。者。余。利
弗。と。若。小。其。地。と。擇。ふ。然。る。あ。の。あ。の。の。大。王。波。斯。匿。王。の。皇。子。祇。陀。太子。遊。獵。の。池。の。幽。樓
引。て。比。お。び。ご。の。地。小。精。舍。と。建。ん。と。祇。陀。太子。小。精。舍。と。云。と。及。び。布。金。の。場
須。達。長。者。精。舍。小。功。徳。の。貴。と。説。け。と。太子。の。不。得。小。精。と。云。と。及。び。か。の。地。に。布
滿。の。黄。金。と。の。は。小。精。舍。と。云。と。及。び。長者。が。富。小。及。び。不。得。と。止。う。と。想。ふ。と。及
か。と。り。長者。大。お。悦。び。て。家。小。帰。を。府。庫。と。同。と。大。家。と。以。小。多。金。と。負。せ。か。の。祇。陀
園。小。ま。り。と。且。と。布。金。十。頃。小。充。滿。且。と。天。小。輝。と。地。小。映。と。貴。か。り。け。る。景。勢。あり。

太子。熱。と。と。和。て。樂。法。の。爲。小。黄。金。と。悦。ま。我。皇。高。と。の。地。と。各。ま。ん。と。勿。心。地。大。信。を
と。乾。は。无。救。の。美。金。と。以。て。の。園。と。買。ん。と。其。の。功。徳。莫。大。あり。然。る。と。我。皇。人。為。美。金。小
換。ん。と。向。の。言。の。説。と。迷。ふ。の。美。金。と。以。て。精。舍。と。の。地。と。建。ま。と。と。及。び。長者。首。を
揮。り。若。の。國。の。大。子。あり。假。小。も。戲。ま。ま。と。及。び。疾。と。収。め。小。太子。也。非。も。金。と。収。め
林。木。と。以。て。精。舍。の。料。と。須。達。舍。利。弗。小。興。ふ。と。人。園。と。布。金。の。場。と。の。大。學。之。第
能。本。が。善。根。實。小。須。達。小。亞。の。の。あ。る。と。一

あ。お。於。て。縁。念。及。び。諸。小。傍。法。の。輩。も。その。威。勢。故。が。と。の。時。お。至。り。は。と。嘯。と。鳴。と
止。めて。閉。塞。す。め。と。と。祖。巨。鏡。自。若。と。と。法。門。大。小。定。ま。れ。り。と。と。大。學。之。第。能。本。が。法
慈。と。周。と。と。祖。と。信。若。校。の。向。の。眞。經。と。修。す。昔。年。比。企。の。候。小。池。あり。若。校。の。向。と。小
汲。と。て。死。ま。妻。念。の。引。く。所。と。候。ま。つ。て。蛇。牙。小。威。時。と。兩。角。空。小。挿。と。豐。饒。日。小。輝。と。と
現。ず。形。と。候。あ。る。人。と。と。あり。能。本。屋。と。と。と。祖。の。法。力。を。假。て。その。惡。念。と。翻。之
と。と。あ。ん。と。の。と。祖。大。學。之。第。能。本。と。國。一。修。法。と。と。請。と。り。この。法。終。て。その。形。を。見。ん。と。

111
合3
94

